

月報

蕨の教会

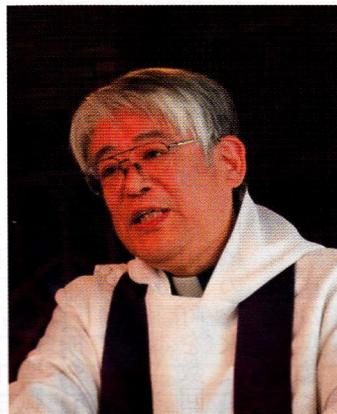
日本聖公会
川越キリスト教会

〒350-0056 川越市松江町 2-4-13 (牧師) 司祭 パウロ鈴木伸明 ☎049-222-1429 FAX049-222-2056
http://www.kawagoe-seikokai.org/ (編集) 文書部 ルカ 野澤 達也

2018年度宣教テーマ「あなたがたに平和があるように」(ヨハネ福音書 20章 19節より) …多文化共生の社会へ…

2018年イースターメッセージ
あの方は復活なさって、ここにはおられない

司祭パウロ鈴木伸明



が語られる
ことになる
のです。復
活のメッセー
ジはたった
一言です。

すなわち、お墓が空であった、とい
うことです。彼女たちは主イエスの
体に香料を塗るつもりでした。あの
重い石を自分たちが転がすことは不
可能ですので、誰が自分たちのため
に石を転がしてくれるのだろうか
と、歩きながら心配していたのです。
しかし、墓に行くのと石はすでに転が
されておりました。しかも主イエス
の体は見当たりませんでした。墓の
中には白い長い衣を着た若者がお
り、こう言いました。「驚くことは
ない。あなたがたは十字架につけら
れたナザレのイエスを捜している
が、あの方は復活なさって、ここに
はおられない。御覧なさい。お納め
した場所である。さあ、行って、弟
子たちとペトロに告げなさい。『あ
の方は、あなたがたより先にガリラ
ヤへ行かれる。かねて言われたとお
り、そこでお目にかかれる』と」。

お墓は死んだ人の入るところで
す。主イエスは亡くなられた、そし
てお墓に葬られた、だから今でも体
がお墓にあるはずだ。そう考えてい
た彼女たちに、主イエスの真の姿を
思い出させる言葉でした。

ガリラヤ、それは主イエスがおよ
そ3年にわたり宣教生涯をかけられ
た場所であり、福音書の主な舞台で
す。主イエスが十字架にかけられた
エルサレムからガリラヤまで歩いて
約一週間かかります。彼らはその距
離も忘れてガリラヤへ向かいました
。十字架の失望に沈んでいた人び
との心に、再び勇気と希望が湧き上
がってきた。人間の力では到底なし
得ない事実が、ここに起こったので
した。これは真実であると語ってい
るのです。

主イエスは神の国を伝えられまし
た。それは場所や時間に制限された
ことではありませんでした、主イエ
スの存在は、時間を越え、距離を越
えて人々に救いをもたらしたのでし
た。主イエスが十字架にかけられた
ことによって、すべてがなくなっ
てしまったのではなかったのです。若
者が彼女たちに伝えたのは、死者の
なかに主イエスを捜すのではなく、
私たちの心に生き続けておられる主
イエスを捜しなさい、との言葉だっ
たのです。

世界各地で多くの対立、苦難、失
望が続く中で今年のイースターを迎
えました。復活の主によってすべて
の人に神様の愛を示され、世界に救
いと希望がもたらされますように
……。

マルコによる福音書の記述により
ますと、十字架にかかり最期を遂げ
た主イエスは、アリマタヤのヨセフ
が自分のために用意していたお墓に
葬られました。お墓には大きな石が
置かれました。それは、人間の力で
主イエスを運び出すことは出来なく
なったと言っているのです。翌日の
土曜日は安息日でした。この日は歩
く距離も仕事も厳しく制限されてい
ますので、皆主イエスに心を寄せな
がら、墓には行けませんでした。し
かし、婦人たちは香料の用意をし、
決して安息してはいなかったのだ
です。

日曜日の朝、明るくなるのを待ち
兼ねたように婦人たちはお墓に向か
いました。そこで復活のメッセージ